

国語科学習指導案

平成28年11月10日(木) 第5校時 6年〇組教室 指導者 丸岡 芳

1 単元名 これ読んで！宮沢賢治のココが面白い～リーフレットで宮沢賢治作品をすいせんしよう～
(教材名「やまなし」「イーハトーヴの夢」)

2 考察

(1) 教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 読むこと

(1)エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述についての自分の考えをまとめること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1)イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと

(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと

②伸ばしたい(身に付けさせたい)資質・能力

- ・場面についての描写を捉える力
- ・優れた叙述について自分の考えをまとめる力
- ・目的に応じて本や文章を比べて読む力

③最適な言語活動の特徴と必要な指導

本単元では、「これ読んで！宮沢賢治のココが面白い～リーフレットで宮沢賢治作品をすいせんしよう～」を言語活動として設定した。活動内容としては、宮沢賢治の本を選んで読み、推薦の文章を書いてその魅力を伝えることとした。

児童は賢治作品からひとつを決め、学校公開日に来校する保護者や地域の方々にそのよさを伝えるために、推薦リーフレットを作るようにする。今回は、宮沢賢治作品や宮沢賢治に関する本や文章から複数を選んで、比べたり重ねたりして読むとともに、優れた叙述に着目して象徴性の高い表現や内容、作品に込められた作者の思いなどについて自分の考えを文章にまとめることをねらいとしている。

推薦するためには、その作品の価値を自分が理解するだけでなく、相手に「読みたい」と思ってもらえるように伝える必要がある。そのためには、作品を読んでもった自分の考えを、推薦や評価の言葉を使って明確にすることが必要である。

④教材文の特徴

本単元は、宮沢賢治の代表作品の一つである「やまなし」と、資料として、賢治の生い立ちや出来事、作品が生まれた背景などが綴られた評伝「イーハトーヴの夢」で構成されている。

「やまなし」は、額縁構造によって二つのタイプの文章から成り立っている。「私」による一人称の視点で書かれた最初と最後の部分が外枠となり、三人称の視点によって書かれた「五月」「十二月」の二枚の幻灯の部分が内側となる。また、かこの親子の会話を軸に様々な小動物や植物が登場し、色鮮やかな場面が描かれている。加えて、擬声語・擬態語や比喩表現、色彩の表現が多く見られ、賢治独特の文章について知ることができる。児童は、このような構造や表現の特徴を基に優れた叙述を捉えて、様々な自分の考えをもつことができる教材である。更には、「イーハトーヴの夢」と重ねて読むことによって、作者の内面やその人生から生み出された作品が長く人々の共感と呼んでいることをも知ることができる。

(2) 本単元にかかわる児童の実態

①既習の学習内容

高学年における「読むこと」の学習では、5年時に「大造じいさんとガン」で優れた叙述に着目して作品の魅力を味わうことを学んだ。また、「わらぐつの中の神様」で、作品の特色をとらえ、額縁構造についても触れてきた。6年時には「カレーライス」で登場人物の言動や心情をとらえ、地の文が誰の視点で書かれているかも考えてきた。また、「私と本」において、自分と本との関わりについて考えたり、心に残った本について文章にまとめる学習を経てきている。

②児童の実態(略)

3 研究とのかかわり

研究テーマ「確かな学力」を身に付けた児童の育成

～指導体制の工夫と「考え、表現させる授業」の改善・充実を通して～

既習事項の活用の工夫については、児童が、必要な既習事項を想起したり、既習の知識・技能を組み合わせたりすることができるように、本時のめあてと対応する言語活動のモデルの部分を示すことで、単元全体でどこまで学習が進み、どんな学習をしてきて、今後どのように学習が進むのかを意識させていきたい。

考えを広げたり深めたりする工夫については、単元を貫いて言語活動を設定することで、考えを広げたり深めたりする表現の場を設ける。

本単元では、単元を貫いて「これ読んで！宮沢賢治のココが面白い～リーフレットで宮沢賢治作品をすいせんしよう～」という言語活動として設定した。活動内容としては、宮沢賢治の本を選んで読み、推薦の文章を書いてその魅力を伝えることとした。

児童は、複数の宮沢賢治作品を読むことになるが、単なる読み取りの紹介ではなく、複数の作品を比べたり重ねたりして読むとともに、優れた叙述に気付き、徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージについて意識しながら自分なりの考えをまとめることを第一としたい。豊かな作品世界に触れた驚きや気付きを他者に伝えるため、自分なりの視点で賢治作品を読み解き、その叙述の特徴や素晴らしさを根拠をもって友達に伝えられるように支援したい。また、友達の読み取りとの違いに気付き、多様な考え方に触れる一助としたい。そして、賢治の評伝を読むことによって更に読書の幅を広げたり、今後の作品理解の背景ともしたりしていきたい。

4 単元の見どころ

推薦の文章を書くために複数の本や文章を比べて読み、場面の描写を捉えながら優れた叙述について自分の感じたことが伝わるようにまとめることができる。

5 評価規準及び指導の計画概要

評 価 規 準	関心・意欲・態度	推薦の文章を書くために、進んで宮沢賢治作品や宮沢賢治に関する本や文章を読んでいる。			
	「読むこと」に関する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の本や文章を比べて読んでいる。 ・場面についての描写をとらえて、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 			
	言語に関する 知識・理解・技能	比喩や反復などの表現の工夫に気付き、語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもって読んでいる。			
時間	主な内容	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	主な支援・留意点
		知識・技能等	思考力・表現力等		
第1時	学習内容を知り、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の作品について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の作品について考えようとする。 ・推薦文を書くために必要な自分の力を認知する。 	1 宮沢賢治や賢治の作品についての関心を深めるとともに、推薦文のモデルを見て、推薦することを考え、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・賢治に関する資料や作品を集め、手に取りやすい環境を作る。 ・推薦に必要な視点を明らかにするために、モデル文は他の作品と関連付けて、魅力を伝える構成とする。
第2時 ～ 4時	「やまなし」を読み、賢治作品について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の物語構成の特色について知る。 ・比喩やオノマトペなどの表現に気付き。 ・文章にふさわしい書き出しや文末表現を用いる。 ・物語の構成に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面についての描写を捉え、優れた叙述に気付く。 ・優れた叙述について自分の考えをまとめる。 	2、3 「やまなし」を読み、賢治作品の特徴と重ねて見つけた優れた叙述について話し合う。 4 「やまなし」で見つけた優れた叙述について全員で推薦リーフレットを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」を読む際、比喩やオノマトペなど特徴的な表現に留意するためにテキストを色分けするなど工夫をする。 ・見つけた作品の面白さを観点別にしてまとめ、のちの学習に生かすようにする。

第5時～ 8時 (本時は第6時)	自分の選んだ賢治作品について推薦文を書く。	・既習漢字、語句の理解。 ・作品の優れた叙述やそのよさに気付く。 ・表現にふさわしい単語の選択(→P246「言葉の宝箱」)	・自分なりの考えで賢治作品を選び、作品を比べた叙述を味わう。	5、6 自分が推薦する作品を読み、一番心に響いた叙述にメモする。メモしながら話の推薦理由をまとめる。	・同じ作品を選んだ児童同士でグループを作り、互いの読み取りを付箋に書き出して交流しながら読みが深まるように図る。
			・読んで感じ取ったこととまとめる。	7、8 書き出し、あらすじ、推薦の言葉を入れ、段落相互のつながりを考えて推薦リフレットに仕上げる。	・推薦理由が明らかになるように、「やまなし」での観点を基にしてリフレットにまとめる。
第9～ 10時	・「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き立ち、生き方、考え方を知り、感想を交流する。	・宮沢賢治について知る。 ・互いのリフレットを読みあわせ、自分の読みあわせの違いやそれぞれよさに気付く。	・比べて読んだ宮沢賢治作品の魅力を確認し、賢治の評伝と読みあわせ自分の読み直したり、広げたりする。	9、10 完成したリフレットを読みあわせ、感想交流するとともに、「イーハトーヴの夢」「雨ニモマケズ」を読み、宮沢賢治の人物像を考え、話し合いながら単元全体の学習を振り返る。	・今まで読んできた賢治作品を俯瞰しながら、賢治の生き立ちが作品に反映されていることに気付くようにする。 ・それぞれのリフレットを読みあわせ交流を通して、他の作品との比較から考えられるよさにも触れながら今後の読書活動につなげていく。

6 指導方針

○習得した知識・技能を活用して課題解決できるようにするために

<既習事項の活用の工夫>

- 児童が、必要な既習事項を想起したり、既習の知識・技能を組み合わせたりすることができるように、
- ・本時のめあてと対応する言語活動のモデルの部分を示す。
 - ・単元全体でどこまで学習が進み、どんな学習をしてきて、今後どのように学習が進むのかを言語活動のモデルによって見える化する。
 - ・今までに学習した物語文の優れた表現や内容を本単元での読みに生かすようにする。

<考えを広げたり深めたりする工夫>

- 単元を貫いて言語活動を設定することで、考えを広げたり深めたりする表現の場を設ける。このことにより、
- ・賢治作品の理解を深め、一つの作品だけでは理解できない作品の世界観に気づく楽しさを味わえるようにする。
 - ・推薦するために自分の理解を確かなものにしたいという必要感をもたせ、児童相互の交流を繰り返して読み取りの深まりを促す。
 - ・付箋交流の際にはページや本文からの引用を記載させ、常に叙述に戻りながら話し合えるようにすることで自分の考えに根拠をもたせる。

○賢治作品の広がりを楽しませるために

- ・映像作品や音声作品も活用する。

7 CRTとの関連 (略)

8 本時の学習 (6 / 10)

- (1) ねらい 作品を読み比べて捉えた優れた叙述を基に、自分の選んだ賢治作品について推薦理由をまとめることができる。

【本時の視点】

- 付箋メモを作る際に本文やページからの引用を記載させ、常に叙述にもどりながら話し合いに臨ませたことは、自分の考えに根拠をもたせることに有効であったか。
- 友達と付箋メモを使った交流を行ったことは、よりよい考えを見だし、自分の考えをもつことに有効であったか。

(2) 人権教育の視点

【感性】作品の優れた叙述について共感的に読み取っている。

(3) 準備 実物投影機、おすすめカード

(4) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ○力を高めたい児童への支援 ◇評価)
<p><学習課題の把握> 1 学習課題を把握する。</p> <p>[学習課題] 一番心に残った場面や文章をもとに、作品の叙述の面白さやよさがわかるようにすいせん理由をまとめよう。</p>	5分	<p>・前時までの学習を振り返り、推薦リーフレットを書くためにメモを確認しながらその理由を明らかにすることを知らせる。</p> <p>既習事項の活用の工夫 ○本時の学習の見通しがもてるように言語活動のモデルを示す。</p>
<p><課題の追究> 2 自分の選んだ作品について、付箋メモを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋メモをリーフレットの用紙に配置しながら、自分が面白いと思った部分が伝わるように工夫したい。 ・面白さが具体的に伝わるように配置できているだろうか。 <p>3 付箋メモをもとに同じ作品を選んだ友達同士でのグループで、読みについての話し合いをして、その作品を推薦した理由をカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の付箋を見て、自分が気付いていない面白い叙述を見つけた。 ・友達の付箋と似ているところがあるので、合体させるといい表現ができた。 	30分	<p>既習事項の活用の工夫 ○付箋メモを作る際には、ページや本文からの引用を記載させ、常に叙述にもどれるようにして自分の考えに根拠をもたせる。</p> <p>(記入す際の観点の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の面白さ キャラクター、描かれ方、相互関係、心情の変化など ・構成の面白さ 場面設定、ストーリー展開、伏線など ・言葉の面白さ オノマトペ、方言、情景描写、色彩表現など <p>考えを広げたり深めたりする工夫 ○本文を参照しながら、互いが気付いた叙述の部分を紹介しあい、それぞれのよさに気付くようにする。 ○交流の際にはそれぞれが考える叙述のよさが観点からそれていないか吟味するようにする。 ◎推薦するために自分考えを確かなものにしたという必要感をもたせ、児童相互の交流を繰り返して読み取りの深まりを促す。</p> <p>◇「やまなし」と読み比べて捉えた、優れた叙述にふれながら、よさがわかるように推薦理由をまとめようとしている。(推薦カード)【思考力】</p>
<p><本時のまとめ> 4 本時の学習を振り返り、次時にはリーフレットを作成し、その後展示公開することを知らせて学習のまとめをする。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦カードを読み返し、自分の思いがあらわされているかを確認する。 ・児童のカードをいくつか投影機を用いて紹介し、よさに気付いたり、自分のリーフレットづくり生かせるようにする。

(表れてほしい児童の意識)

- ・「○○」を「やまなし」と読み比べて分かった叙述のよさをカードに表すことができた。
- ・友達の手紙を見て、気付いていなかったところが分かった。
- ・自分の感じた叙述のよさが伝わるように手紙を構成することができた。

- ・推薦リーフレットを書くことへの楽しさや期待をもたせる。

9 板書計画

宮沢賢治の「コロボロギツ」が面白い

◎本日の学習課題

- ・メモを確認しよう

観点

- ・登場人物の面白さ

- ・構成の面白さ

- ・言葉の面白さ

- ・グループで話し合おう

- ・おすすめカードを書こう